



**伊藤千代子
実行委員会ニュース
第2号
2020年4月25日**

編集・発行：「劇映画『伊藤千代子の生涯』
(仮題)の製作・上映運動を進める実行委員会」
(略称：伊藤千代子実行委員会)
住所：東京都豊島区南大塚 3-43-13—302
全日本年金者組合東京都本部内

『時代の証言者 伊藤千代子』の著者藤田廣登氏の本紙への寄稿を紹介します。

**民衆の幸せのために、涙ふるって起ちあがった
劇映画「千代子の生涯」のめざす挑戦**

「こころざしつたふれし少女…」と土屋文明詠歌(1935年)によって抹殺をまぬがれた伊藤千代子に、いま新しい光をあてる劇映画が、全日本年金者組合などの推薦・賛同を得て来春クランクインをめざしています。

女性主人公の映像化への画期的挑戦

これまで、独立プロの作品の多くは多喜二をはじめ男性が主人公でした。そうした中で、日本の労働運動と革命運動の黎明期に科学的社会主義に導かれて登場した新しい女性を主人公にする初めての挑戦です。

その主人公の一人、伊藤千代子に焦点を当てます。いま静かな感動を呼んでいる藤田廣登著『時代の証言者 伊藤千代子』(学習の友社刊)を原案に、一諏訪高女で土屋文明の薫陶を受け、東京女子大社研へ。入党直後に3・15弾圧で検挙、獄中の困難に屈せず同志たちを励まし続けその途上で夫浅野晃の変節、懊悩で苦しみ病勢つの中、特高監視の精神科病院に押し込まれ、24歳の若さで生涯を閉じる、その清冽で、ひたむきな生きざまを描くことによって青年や多くの国民に共感を呼び起こす作品をめざします。

さらには、ベーベルの「婦人論」を読み、女性の自立と「男性社会の催眠術」から目覚めることを呼びかける新発見の手紙などを反映させ、ジェンダー平等の運動を限りなく励ます作品をめざします。

感動作品をみんなで創る運動への挑戦

いま、現代を撃つ力、「自己責任論」に苛まれる青年たちを励ます力となる映画を作り出す独立プロダクションの支え手は、広範な勤労者、国民一人ひとりです。製作資金を集める運動からはじめ、完成した映像を広範な国民に観てもらおう上映運動は、戦後の独立プロが生み出した教訓です。

私たちはいま、①製作資金募金を訴えつつ、②募金を地域・職域・団体で「1口10万円」を無数に集約し、確実に映画を撮り続け、2021年完成させる保証を創り出そうとしています。今般、都本部の推薦決定は、その動きを大きく励まして行くことになるものです。

(藤田廣登・労働者教育協会理事、治安維持法陪同盟顧問)

映画「伊藤千代子の生涯」の総監督・桂壮三郎氏は、3月に制作の進行が、2021年にずれ込むが、まずは資金を確実に集めることが大事とし次のように決意を語っています。

作品の掲げる革新的、社会的、文化的な生命をもつ本作品の映画化は限りなく意義のあるものだと確信します。戦後最悪の民主主義破壊の政治状況と真正面から切り結ぶ映画として、いかなる困難性が待ち受けようと、また、予測されようと全力を上げて映画の完成を目指すものです。

日本に於ける文化としての映画の立ち位置は、国の映画政策等から見ても諸外国に比べ低い文化である事を製作者として認識しています。それから、突然世界を脅かす存在となった新型コロナウイルス感染拡大による直撃は映画等の文化活動を断念させる悪影響が広がっています、しかし、全国の多くの支援運動の力を借りて様々な障害を乗り越え製作運動を力強く進めるつもりです。

賛同者が広がっている！

3月17日(火)女性部役員会での「千代子の青春」の学習会後、10万円の上映債権への協力申し出がお2人から届きました。

お一人は、都本部執行委員(女性部役員)で秋川支部支部長でもある雨宮富美江さん。もうお一人は足立支部執行委員で元女性部の役員でもあった小松なおみさんのお2人です。

雨宮さんは3月17日の学習会で買い求めた藤田廣登著の『伊藤千代子の生涯』を持ち帰ったところ、本を目にされた夫君が先に読み、とても感動されたそうです。色々活動されて来た方で伊藤千代子の名前は知っておられましたが、その人となりはこの本で深く分かったそうです。「良い映画が出来ると良いね」と10万円を出し「都本部の役員の方のあなたの名前にしておきなさい」と何とも嬉しいお話でした。

小松なおみさんは年金東京ニュースでこの取り組みを知り協力の申し出をしてくださいました。10万円のお金を出すのは良いのだけれど、上映会を取り組む自信は体力的に無いとの事。でもお話しする中で「そうだ！地域の新婦人で良い映画を観る会をやっているので相談してみるわ」と明るい声で答えてくださいました。